

お子さんの「進路選択」を迎えるにあたって

中学校3年生の秋は、体育大会、文化祭や合唱コンクールなど、さまざまな学校行事も終わっていき、いよいよ「進路選択」への雰囲気が一気に高まっていきます。「進路選択」の基本は、「行ける学校(就ける職業)」ではなく「行きたい学校(就きたい職業)」で考えていくことです。親子でしっかりと話し合い、納得して選択できるよう、次の点に気をつけてください。

滋賀県子ども・青少年局 主査 小磯 浩司(中学校教員)

親子で十分に話し合い お子さん自身が「こうします」と言えるようにサポートを

三者懇談会の中で、先生の目の前で繰り広げられるよくある場面です。しかし、これではなかなか懇談は前に進みません。少しの時間でも構いませんので、お子さんと話す時間をとりましょう。それを積み重ねていくことが、親子で納得した進路選択につながります。思春期でなかなか話したがらないお子さんもいるかもしれません、お子さんの将来に関わる大切な時期です。そして最終的には、「進路希望先」を「お子さん自身から言える」ように周りのサポートをお願いします。



進路希望先のことを十分に理解していますか?

お子さんも保護者の方も、進路希望先のことをどれだけ分かっていますか?「通学に何分かかるのか」、「電車代はいくらかかるのか」、「どんな学習をしているのか」、また就職を考えている方は、「どんな仕事内容で、勤務時間帯、給与はどうか」など、確認すべきことはいくらでもあります。お子さんと一緒に十分確認してください。十分理解しないままの選択は、中途退学や離職の原因になります。 「こんな学校(職場)とは知らなかった」、「こんなはずではなかった」といった後悔につながらないように、高等学校のオープンキャンパスや学校(職場)見学、体験授業などには積極的に参加し、納得して選ぶようにしましょう。

学校としっかりと連携をとりましょう

学校からは高等学校に関する情報だけでなく、奨学金に関する情報など、進路に関する様々な情報が提供されています。高等学校のパンフレットや学校の進路通信、県や市町からの案内などもしっかりと読み込んでおきましょう。また、進路関係の書類、奨学金申請など、それぞれ〆切日が設定されていることがほとんどですので、書類の不備等への対応する日数も考慮して、期限よりも少し早めに提出しておくことが大切です。また、困ったことや相談したいこと等があれば、担任の先生や進路担当の先生まで、早めに連絡するように心がけてください。

ほとんどの生徒が初めての進路選択を迎えることになります。なかなかうまくいかず精神的にもしんどい状況になることもあるかと思います。『進路』を通じてお子さんが一回り成長できるよう、保護者の方をはじめ、周囲にいる方々の温かいサポートをよろしくお願いします。

滋賀県立図書館による おすすめ本

日本の
読み物

『ゆきだるまのるんとぶん』

たかどのほうこ 作・絵
偕成社(2004年刊)

ふたごのゆきだるま、赤い帽子の「るん」と青い帽子の「ぶん」。2人の違いは帽子だけ。2人はその日によって、「るん」になったり「ぶん」になったりしていました。なぜなら・・・。この冬にぴったりの読み物です。



『雪の写真家ベントレー』

ジャクリーン・ブリッグス・マーティン 作
メアリー・アゼアリアン 絵 千葉茂樹 訳 BL出版(1999年刊)

皆さんは雪の結晶を写した顕微鏡写真を見たことがありますか? この本は、19世紀のアメリカで、農夫として過ごしながら、50年にわたって雪の結晶を撮り続けたウイリー・ベントレーの一生を、美しく彩色された版画で描いた絵本です。

えほん

『きらきら』

谷川俊太郎 文 吉田六郎 写真
アリス館(2008年刊)

ベントレーが出版した写真集の美しさにひかれて研究を始めた、雪の世界的権威中谷宇吉郎博士。その中谷博士との出会いをきっかけに雪の結晶撮影に取り組んだ、科学映画監督で写真家、吉田六郎の写真絵本です。写真一枚一枚に、谷川俊太郎が詩をつけています。



えほん

『こども文様ずかん』

下中菜穂 著
平凡社(2010年刊)

ベントレーと同じ19世紀、日本では、お殿さまが顕微鏡で雪の結晶を観察していました。当時の人びとは、その美しさに驚きつつ、結晶を文様として楽しんだようです。この本では、雪の文様に加え、ゆきだるまの文様も紹介しています。



知識の
本

お問い合わせ

滋賀県立図書館 〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1
☎077-548-9691 <https://www.shiga-pref-library.jp/>